

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300439		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム長庚堂		
所在地	長崎県島原市弁天町一丁目7054番地		
自己評価作成日	平成 27年 12月 15日	評価結果市町村受理日	平成 28年 3月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体法人が医療機関にて24時間体制での医療と介護の連携が図れており、利用者様、ご家族様には大変安心して頂いている。また、管理栄養士の作成したメニューにてバランスの摂れた食事を提供している。商店街、公園も近い為に散歩を兼ねて買い物にも出掛け易く、交通機関の利便性も良い。施設は木造平屋作りで職員は共に暮らす家族との思いで支援に心がけておりアットホーム的な生活を提供している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.local-net.org/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28年 2月 8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の医療と介護を繋げたいと尽力する医療機関を母体に持つ当該ホームは、『自分らしく暮らせるように』との理念のもと、地域の中で家庭的な雰囲気と入居者の「個」を大事にした支援に取り組まれている。介護と看護の両面から入居者の生活を支援し、介護が必要となっても入居以前の生活が維持できるよう、入居者や家族と話し合いの機会を多く持ちながら支援されている。入居者の声に傾聴し生活様式や生き方が選択できる場面が多々準備されている事は、入居者の自信や安心にも繋がっており、法人内の他職種からも助言を得ることで入居者が抱える課題への取組みがなされ、職員の専門性や細かなチームワークにより日常生活動作や意思決定が維持できるよう支援されている様子が印象深い。日常生活動作をできるだけ自分で行うことで健康に家族と過ごせるよう支援し、家族の面会を入居者と共に心待ちにする職員の姿に、今後ますます期待の持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関と事務所に掲げており、毎朝の申し送り時に全員で唱和して実践に繋げている	「自分らしく暮らせるように」の理念のもと、入居者とのふれあいの時間をゆっくりとすることで入居者の思いに傾聴し、一人ひとりの生き方に近付けるよう取り組んでいる。日常的に職員間で話し合いの機会を持ちながら入居者の思いを共有し、理念を振り返りながら支援の統一が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板を通じ施設便りを回覧したり、市民清掃、不燃物出しの表札の設置協力も一員として行っている	日頃より近隣住民との挨拶や声かけを意識し、地域との良好な関係作りに努めている。地域住民の一員として積極的に地域行事に足を運び、入居者と地域の交流がなされ、夜間の火災発生時は近隣住民に見守りの協力体制作りがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体の認知症疾患センター主催の講話などの案内など町内会長を通じて行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各々の立場で意見交換、アドバイスを頂いているまた、母体の専門職からの講話も取り組みサービスに活かしている	町内会、民生委員の参加があり、忌憚ない意見を聞かせて頂いたり情報交換の場として活用されている。参加者からも災害時の対応や身体拘束等についての問いかけがあり、ホーム運営に関心を持って関わって頂いている様子が窺われた。入居者が交代で出席することで参加者とのふれあいの機会となり、家族に対して推進会議を語らいの場として活用したいとの管理者の思いも表明されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加はもちろん、必要に応じて電話や直接伺いアドバイス頂いたり、島原市部と島原半島の連絡協議会を通じても連携を図っている	母体は地域の医療と介護の連携に尽力されており、現場の声を行政に届ける仲介役を担っている。運営推進会議をはじめ日常的に包括職員と情報交換を行い、認知症サポーター実習の受け入れや地域と介護を繋げ安心に繋げる取組がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にも参加し理解している。また、日中は施錠をせず身体拘束をしないよう取り組み支援している	身体拘束を行わない方針であり、職員による細かな見守りとチームワークで安全面の確保に取り組んでいる。行動抑制を行うことで生じる入居者の不安や焦燥感、また薬害を理解し、職員間で対応について話し合いの場がもたれている。運営推進会議内でベッド柵の使用について質問があり、ホームの方針や取組について説明を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加し、全職員が意識付けし防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会では全員が学んではいるが、これまでに活用した実績がない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学と十分な説明を行い同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中や面会時に意見、要望を聞き対応に心がけている。また意見箱を設置している	面会時には入居者の日頃の様子が細かく説明され、家族との関係性を深める取り組みがある。「まちななか」と題したホーム便りでは、ホームの行事や出来事を紹介し、また電話や手紙を通して職員の思いや方針を伝え、家族と相談しながら個々に応じた支援に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やスタッフ会議の中で反映させている	「個」を大事にしたケアに重点を置き、日頃から入居者の言葉や表情に注意を払い職員間で話し合いの場がもたれている。日常的に管理者が現場に入ることで業務や入居者にとって支障を生じている声を拾い、職員と相談しながら改善に繋げる取り組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体LANにて勤務状況も管理把握できるシステムとなっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体、協議会での研修、勉強会はもちろん、希望時は了解を得て参加できている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島、島原支部の事業所を通じ交流ができています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問し面談を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から面談時に聞き取りを十分に行い信頼関係が築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様にアセスメントし、また必要に応じて関係施設の担当者からも聞き取りを行い対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の下、家族の一員として安心した支援を心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、手紙や電話等を利用している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙などを継続して行っている	ホームは地域の古い町並みや商店街の一角に位置しており、職員の付き添いで通いつけの商店や衣料品店に足を運び、店主や地域の友人と会話を楽しめるよう働きかけがなされている。入居時家族より携帯電話の解約の相談を受けるも、家族や知人との関係性が途切れないよう、本人のためにも無理に解約せず見守っている事例もあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事以外でもレクリエーション等、一緒に触れ合う時間作りをサポートしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会に行ったり、相談にも傾聴している。また、自宅で咲いた花や古新聞を持って来て下さる協力関係も続いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の意向に沿った支援に心がけているが、帰宅願望がある利用者様に対しては、ご家族様の受け入れが厳しいが説明し理解を求めるように努めている	入居者との会話の時間を大切に、会話の中からその方の大事にしてきた生き方や、思いを汲み取るよう努めている。その方が抱える不安の理由を家族に聞き取りし、声かけの仕方や接し方の工夫など入居者の立場に立って話し合い、生きがいに繋がられるよう取り組んでいる。入居者の仕草や口癖から要求のサインを察し、言葉にならない思いを汲み取る様子も窺われた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族様に聞き取り把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に把握できている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、モニタリングを実施し説明し意向を反映させている	介護計画には本人や家族の希望が記され、入居者の思いと家族の意向を踏まえながら職員で話しあい支援内容が設定されている。「自分らしさ」を踏まえ、介護と看護の両面から自分でできる能力の維持継続に繋げ、生活の中で職員の関わり方を話し合い取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、短期目標ケア内容に対しての評価を記録し職員間で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体の専門職からのアドバイスや協力支援も受け取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館祭りや選挙等にも出かけ希望に沿って支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	意向に添った受診を行っている	職員による細かな観察と、かかりつけ医への報告によって症状の悪化を防ぎ、重症化しないよう取り組んでいる。24時間体制で母体と繋がっており、内服による身体の負担や副作用による影響等を医師に相談し支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護と異常時にも対応相談の協力支援を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様、ご家族、主治医と相談し意向を踏まえ連携を図り早期退院に向けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	計画作成時に、利用者様、ご家族様に説明し意向の確認を行っている	家族と医師の意向により母体医療機関での看取りとなることが多い現状にあるが、母体での研修に出席し看取りの心構えや知識を深める取り組みがある。看護師である管理者と共に、今後も家族の希望に添って職員体勢を整え医療への移行直前まで対応していく意向である。今後も看取りに関して職員のスキルアップや体制づくりを行っていくことが自他共に感じている課題であった。	看取りに関しては法人の方針もあり、ホームでの実施がない現状にあるが、住み慣れた部屋や見慣れた職員のもとで行われる看取りは本人や家族の安心感に繋がっており、また終の棲家として、当該ホーム理念である「その人らしく」といった尊厳ある看取りの実施に繋がると考えられます。今後も家族の意向や想いをうけとめながら看取りの体制作りや母体への働きかけを継続し行って頂くことに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し勉強会にも参加している。救急救命士より指導も受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアル作成しており、施設単独で年2回、母体での訓練を年2回実施し、地元消防団の参加も得ている	近隣住民や地元消防団との交流や合同訓練の実施があり、有事の際の協力体制の構築に努めている。今年度は地震を想定した訓練の実施や備蓄品の再整備に取り組み更なる安心に繋げる取り組みがあった。訓練時に「戸惑いがあった」という振り返りも見られ、今後も手順の確認をしながらスムーズな避難誘導の体得に課題を感じており、今後も更なる訓練を重ねる意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づきプライバシー保護に努めている	入居者の「個」を大事にする理念があり、職員は自己評価で入居者との向き合い方を振り返り言葉遣いや接し方に注意している。入居者の意向に応じて訪室を短時間に工夫したり、買い物をはじめ支援を行う際は必ず本人に意思を確認し、本人が選択できる場面が多い様子が窺われた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で言えない利用者様には表情を察知するようにしている。また急かさず、ゆっくり聞くように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えない時もあるが、極力意に沿えるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや化粧に関しては利用者様に任せている。散髪も行き付けの店を優先し支援に心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年々、調理参加できない利用者様が増えてきているが出来る事を探し一緒に行うように心がけている。また嗜好調査も定期的に行っている	調理の際は入居者ができる範囲で野菜の仕分け等のお手伝いをお願いし、準備等役割を担いながら食事を楽しんでいる。年末の餅つき大会では、できたてのお餅を自分たちで丸め、柔らかさを感じる等昔を思い出し懐かしむ取り組みもあった。自宅の延長である意識を持ち、入居者が居室でポットを使用し、それぞれのタイミングでお茶を楽しむ様子も確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理栄養士が作成したメニューで工夫している。水分補給も気候、体調にあわせ行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけで実施。必要に応じて協力歯科にて定期検査も受けアドバイスを頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて把握し誘導に努め介助しオムツ使用の減になっている	職員が定時誘導することで失敗をなくし、オムツを使わない方針である。日常生活の中での移動や移乗で自立を促し、筋力低下予防のために専門職から指導を受けることで、できるだけ自分でトイレに行きたい意思を保ち、排泄動作の維持ができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度の水分補給と腹部マッサージ等を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を定めているが希望、必要に応じて対応が可能である	お湯の温度や入浴時間帯を入居者が選択でき、ゆったりと寛ぎながら入浴ができるよう取り組んでいる。季節に応じてゆずや菖蒲を準備し、季節を感じる取り組みもある。入浴を好まない入居もおられるが、職員の声かけを工夫し家族の協力を得ながら安心して入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々にあわせている。また不安の強い利用者様に関しては、職員の側で落ち着くまで側で休んでもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	マニュアルに添って個々に支援している。処方表を個人記録に貼付し毎日確認できている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る役割を見つけ張り合いに繋げている。また趣味やレクリエーション等を通じて気分転換を図るようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方からの季節毎のイベントや展覧会などの情報を貰い参加したり買い物、外食も希望で行っている	家族の理解のもと自由に近隣へ散歩に出かける入居者をはじめ、商店街への買い物や、近隣の散歩など日常的に気分転換が図られている。地域の催しを楽しみにしている入居者も多いため外出の機会を増やしたい意向にあるが介護者不足のため思うようにできない課題も窺われた。家族の協力を得ながら外出を支援する取り組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金銭は利用者様本人で管理し自分で選び購入できるようにつなげている。また、管理はできない利用者様も商品を選ぶ楽しみをもてるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙、FAXでのやり取りを継続できるよう支援に努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の掘り炬燵では、ゆっくりと入れられ生活観が感じられる。また季節毎の飾りつけ等に工夫をしている	柔らかな色調で整えられた家具類は、入居者が穏やかに過ごせる効果をもたらし、動線や家具の高さに配慮しながら、入居者自らお茶や食事の仕度を準備できる環境に整備されている。大きな窓からは外を歩きかう近隣の方の姿を眺めることができ、季節感を感じさせる飾りを用いた工夫が確認できた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間、玄関フロアの椅子でも団欒の姿が見られ和まれている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様、ご家族様と相談し馴染みのある家具や仏壇、などの持ち込みもあり過しやすい工夫に心がけている	居室には家族や本人と相談しながら入居以前に使われていた馴染みの家具や寝具が持ち込まれ、入居者の心に安心感をもたらす寛げる空間が準備されている。ホームは自宅の延長である事を意識し、入居者が自分で身支度や趣味活動ができるよう家具の配置が検討され、自立を促す工夫も確認できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて手すりやスロープでの対応。また、廊下には歩行灯を設置している。ロフトも設置にて隣りの事業所とも行き来がスムーズで交流しやすい		